

續
近
世
畸
人
傳

四



三つしびえぬのうらぶらうのび謝してさあひよりそは
ひんくしそはよふとらふれん慶と人禁宗乃法眼の尚
まじあつてまうのうがまう入るひの秋の師曰く會て
あつの師云人教と書くはひのまの慶の慶年と一人教
着るもこのわが者位人教と宗しんやそ。撒眼の尚
曰。誠哉吾も宗教なり。一切徑と歌刻して集山に納ら
来くまの慶とんてまうの慶と人曰。我の南都人佛及
と造とんてんてまうの師曰。我も一人教の宗門の傳
はの教とて一師のや沈ぶとく修ふ邊の宗門類はそ
は中とひんく翻つてんてんてん。祖意とあつて。修まてんてん。復とんて
おつてんてん。二師とんてん。指宗の。吾等が教の一人とわんてん
水とわんてん。まうの。師の教の信は。慶とんてん。

一々新とんてん。これ詳してまうの師はまの慶とん
そしと祖道元禪師の像ふらにひんく。ん教とあつて。慶
とんてん。はひんくして。十六日か。人まうの。わんてん。
慶宗の田家の禪定さうは。林中坐禪のつら。ま
まの秋のわんてん。慶とんてん。像とんてん。とんてん。ひんく。
まうの。まうの。わんてん。はひんく。はひんく。はひんく。はひんく。
そは。法津國のまの。無縁の。まうの。まうの。まうの。
わんてん。の。今ふ。まうの。禪定。まうの。まうの。まうの。
彼。まうの。まうの。まうの。まうの。まうの。まうの。
昨。天の。まうの。まうの。まうの。まうの。まうの。まうの。
時。連。まうの。まうの。まうの。まうの。まうの。まうの。

誠、自、拙、彫、至、殿、職

將、芳、類、古、勤、心、灰

只期山澤互通氣

同是双虚受物

中や六くもれんと志れり。院ふふ殿山の辨江社
 玉のふふあり。曹如家乃諸大寺に在令ありてれん成
 邦し流學と志下られちよほる。は親王孫よそんと志
 しまりありて。是元禄七年八月廿のく。下り
 入教と誓われり。二十一年あて令成。母及自慢古る人
 されられ。僧人童賣ゆし復古様林の類と稱しり。正徳
 六年しふ。寺持の句う。一源光庵よ遷行し。阿牛
 那任鑰が婿の碑又異して石よ備く。彼らふ建り。
 花顯云。法眼和尚の乳の初り。十八年と終り。天和
 元年辛酉人養後彫刻成り。美入殿山の藏し。了る。
 そ中へ前編和尚の傳よ具と。公慶と。一河田れ

今と南都東大寺龍光院よ恒ん。此よ大寺。大
 佛殿の。天年勝齋四年 聖武天皇の勅れよ是
 五し。と。四百二十二年と終り。高倉院治承二年
 二月廿八日年を御乃兵火よあり。後養和
 元年醍醐さ乃俊仍坊重源と人入勅をさ。り
 後白河院録念石幕下に勅し。終り。建久六年再
 ひ就。同く。二月廿日。さ。一。念石幕下も未信
 より。及。三百七。三。と終り。永禄十。四月十日。松永
 傳。心。久。あ。が。兵。火。よ。入。焼。失。ん。け。付。津。有。り。比。よ。あ。る。
 と。久。わ。福。任。の。處。士。山。田。乃。安。り。又。画。の。所。よ。多。く。財
 宝。と。出。て。佛。頂。と。海。鏡。を。入。り。し。佛。を。さ。れ。り。も。
 萬。徳。の。長。ち。う。ら。及。り。け。高。徳。曰。元。禄。九。年。因。京。え。ん。せ。乃
 記。あ。も。野。牛。し。ん。ま。ま。し。れ。り。

卯の不見國去永里ふる。釋名猶も元より後了
 乳と難く。りひつらん研とせし。ぬそこま画とるのよは
 奇趣也。又源太右衛門忠綱會津屋の侍がわが今侍のこがま
 後致けし京師よまも男を長ぐ馬に宿遠とあへも
 そ長くと後者とりつれはふひびくほまよく赤坂田町
 乃旅令として不測の害よあふ。是實又九己酉八年
 三月廿一の事也。津海にききあり 町は師の七中本そほまを去
 横津國芥川の釋として復讐ちし侍の師九中もそま
 京師ともつ。師よまふはんとあまそと總くしるまもそ
 知とま。まもそまらにゆき。故郷のちふ人そそそ地
 とまふ。師やま。まひよまれ。まふ夫と裁さるれ仇と
 うまふとゆき。まふまふといふく。ま知のまふ

男思として士まのるあく處も。まのの蘇智として都門
 入父の真福とねんのやまやと。まのあれ固あれ
 へ。遍照心院みひかりの經基王の處をふりて去まのの八系中の
 八系中覺禪尼二位女實禪尼のりも満州の産を乃の徳とまふ
 安前門院は系馬河州まふの徳もまふ 義洞をねふまふまふ
 別度しねふまふまふまふまふまふまふまふまふまふ
 られまふまふ。比尋院覺雄一流の閑居をねらつ
 くら。其同詩章の徳名五回まふまふまふまふまふまふ
 其信ふ。又徳山月潭禪師まふまふまふまふまふまふ
 られまふまふ。其まふまふ。其まふまふまふまふまふ
 尚ほ従ひ標者のま流とまふまふまふまふまふまふまふ

寛政のふとむらじの志と若くして出づ。毎ふとむらじの志を
まじりて一編とす。まじりて一編とす。まじりて一編とす。まじりて一編とす。
若くして一編とす。若くして一編とす。若くして一編とす。若くして一編とす。
去名と志の功と審らふと志の教をわが故守り
記と志と若くして一編とす。若くして一編とす。若くして一編とす。若くして一編とす。
指言のふとむらじの志と若くして一編とす。若くして一編とす。若くして一編とす。若くして一編とす。
山文師の志と若くして一編とす。若くして一編とす。若くして一編とす。若くして一編とす。
おれども志と若くして一編とす。若くして一編とす。若くして一編とす。若くして一編とす。

吾中早春試毫

江漢為家如逢春

山能立世衣綿志

上堂日寄二二子

且善至朝寓此身

只期神運與子新

標本從末不足量

大塊假我操極力

洲松下物之希也

又古徳の希也

何年十二日也

我の加藤式

之の教人の希也

若くして一編とす

作付の希也

下。常人の希也

若くして一編とす

若くして一編とす

山僧何幸と僧綱

他日儘堪為操梁

及古徳の希也

何年十二日也

我の加藤式

之の教人の希也

若くして一編とす

作付の希也

下。常人の希也

若くして一編とす

若くして一編とす

若くして一編とす

石浜若ぬちもいふなり

千石をもちまき甲ふなり。東京侍ある人ふきこびぬ
術とおよよみ人むし親の熱おとす人てせらる。そゝ家
病みしてふとてまじらふとてしひらるぬもあかふく
らへみかふ年と侍もひるよとてあはははるるにふい
くぬがかりいふあふふいひぬるへう薦傳へるるに
あひひ。侍もあふふをうりぬるにひらぬるに
ぬ。一日は華のうにぬらさるゝぬるもそふぬる
ふくくつて。すふふふふふふふふふふふふふふふ
ふ人の良者なげん 十日半ふふふふふふふふふふふふふふ
官麻ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
きり。さう通欄ふふふふふふふふふふふふふふふふ

九口旅店乃其都とあるはらふ信二人あまた行一人
いひぬ。一人は侍もあふふ。侍もあふふふふふふふふ
まてそふふふふふふ。侍もあふふふふふふふふふふ
村備ふふふ。やうふふふふふふふふふふふふふふふ
類とあふふふふ。本筋知のほとあふふふふふふふふ
くつれあふふとあふふ。むふふ長年十日あふふ。あふふのほ猪
度ふふふのひあふふふふふふふふふふふふふふふふふ
しく親れぬと復とあふふふふふふふふふふふふふふ
根とあふふふふふの極とあふふ。いふふふふ細川肥後
いあふのむふふふあふふふふふふふふふふふふふふ
高橋玄。信向の御教終結しありあり。それゆへに華屋終結
此後世のうとてまじらふとてあふふふふふふふふふふ
へうすれあふふふふふふ
あふふふふふふふふ

雨森芳洲

芳洲多森氏名鐵清字伯陽海標系大糸本下頂座の
 門下遊く新井白石室鳩巢紙園南河の緒老をも
 小名取天子に感せり。京師乃人として馬乃又學
 とまり。湖くに昇進と。善とくくく廣音韓善と
 不通り。韓人此善と結ぶと三國の善のうらら
 ちや子の本とやうにやうにやうにやうに吳邦
 乃善と國へ不許辨とるとか。真実碩儒をうらむ
 ち遺言政治のゆとさうとさうとさうと道さ
 本でる獨憲茶話とてわらわのよしたる。一時清園れ
 隨筆とていふも。そ氣振とて博園とていふも。れ
 端とて又萬葉とていふも。一件の。後張天竜とて

長長老日吉善とて一贈とて一俗牘二師乃
 自坊三秀院よりあり。極老の及園寺小志と結と
 吾とて一善とておのわらわびるさうとていふ
 いらる。老ていふとて壯健とていふとていふ
 似と。却ふとて園とて夕に死とていふとていふ
 とも。懃とていふとて一條とていふとていふ
 とも。いふとていふとていふとていふとていふ
 不掲と。吾友春日庵茶則結ぶ。此先生許ともいふ
 蕭葉佛林おとていふとていふとていふとていふ
 猶とて相違ふお見せはははははははははははは
 生能敷けははははははははははははははははは
 おとていふとていふとていふとていふとていふ

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or historical document. The text is written in a cursive style and covers most of the page.

法華經女

Handwritten text in Arabic script, continuing from the previous page. It contains several lines of text, possibly a commentary or a specific section of a larger work.

Main body of handwritten text on the top page, written in a cursive script.

Main body of handwritten text on the bottom page, written in a cursive script.

其の十片の念ふ事なす^た甚急
不^レ念^ルと存^シむ^レ也。此^レ等^ノ事^ハ何^レ事^ナら^ズ 神園^ノ入^ルは^レは^レり。
雖^レも一^ノ名^ニ引^ク引^クし^テ仰^ガれ^ル事^ハ多^ク也。
其^ノ所^ニお^りて^キ年^々に^ハお^のづ^かり^ニ引^ク引^クす^レル^レ也。
其^ノの^後に^ハ引^ク引^クして^ハお^のづ^かり^ニ引^ク引^クす^レル^レ也。因^テ此^ノ事^ハ彼^ノ事^ニ引^ク引^クす^レル^レ也。
また^ハ彼^ノ事^ハ此^ノ事^ニ引^ク引^クす^レル^レ也。すなは^チて^ハ此^ノ事^ハ彼^ノ事^ニ引^ク引^クす^レル^レ也。
附板倉^御伊賀^守為^京都^と守^護し^給ふ^所なり。三條^橋御
あ^の命^ノに^従ひ^て拾^六日^入り^給ふ^所なり。此^ノ事^ハ彼^ノ事^ニ引^ク引^クす^レル^レ也。
た^がり^て拾^六日^入り^給ふ^所なり。此^ノ事^ハ彼^ノ事^ニ引^ク引^クす^レル^レ也。
つ^つり^て拾^六日^入り^給ふ^所なり。此^ノ事^ハ彼^ノ事^ニ引^ク引^クす^レル^レ也。
ま^まり^て拾^六日^入り^給ふ^所なり。此^ノ事^ハ彼^ノ事^ニ引^ク引^クす^レル^レ也。
た^たり^て拾^六日^入り^給ふ^所なり。此^ノ事^ハ彼^ノ事^ニ引^ク引^クす^レル^レ也。
と^とり^て拾^六日^入り^給ふ^所なり。此^ノ事^ハ彼^ノ事^ニ引^ク引^クす^レル^レ也。
能^くり^て拾^六日^入り^給ふ^所なり。此^ノ事^ハ彼^ノ事^ニ引^ク引^クす^レル^レ也。
し^らべ^りて^拾六^日入^り給^ふ所^{なり}。此^ノ事^ハ彼^ノ事^ニ引^ク引^クす^レル^レ也。
て^んが^らひ^て拾^六日^入り^給ふ^所なり。此^ノ事^ハ彼^ノ事^ニ引^ク引^クす^レル^レ也。

後迄世傳く侍ま